

令和6年度 学校評価のまとめ

松山市立湯山中学校

1 はじめに

本校は山間に位置する小規模校であり、その特徴を生かして、学校・家庭・地域が一体となって、特色ある学校づくりに取り組んでいる。教育目標「笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成」の実現を目指して、豊かな人間性や生きる力を育む教育活動を進めている。

学校評価は、本校の教育活動の成果を検証し、必要な支援や改善について検討するための資料であり、それら支援の充実や改善によって、生徒がより良い教育を享受できるよう、学校運営の発展を目指し、教育水準の向上を図ることをねらいとしている。

なお、肯定的評価（思う、やや思う）と否定的評価（あまり思わない、思わない）に大別して分析することで、結果をより分かりやすくまとめている。

2 結果と考察

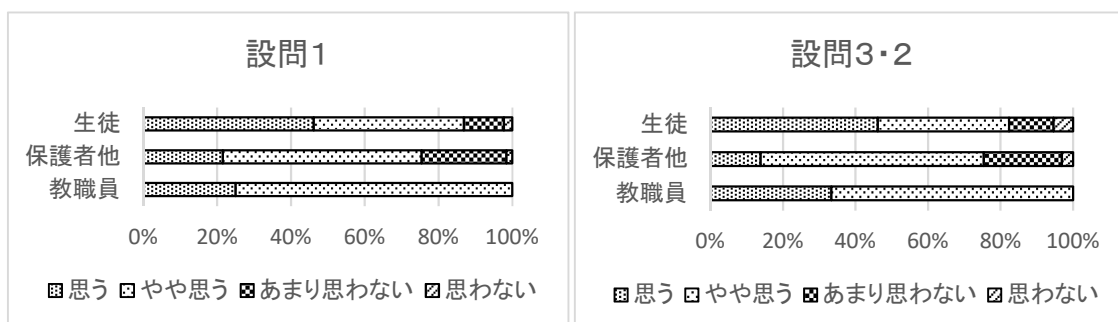
① 教育課程・学習指導について

設問1 学校は、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

学校の授業では、学習内容の理解が深まったり、友達と学び合ったりすることができて、うれしいと感じられる。（生徒）

設問3 学校は、児童生徒の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問2 学校では、学力や体力の状況に合わせた授業を行っている。（生徒）



学習指導に関する質問では、全体として肯定的評価の割合が高い。生徒の肯定的評価は80%以上だが、保護者の肯定的評価は80%に届かず、昨年よりも低下している。学習内容の理解が十分に深まっていない生徒や、学び合いを苦手とする生徒も一定数おり、学ぶ喜びと分かる喜びやできる喜びは必ずしも同一ではない。様々な授業形態や指導方法についての理解を深め、学びを深め合える授業づくりと個に応じた指導や個別学習の充実など、バランスを取りながら授業改善を進めることが重要である。

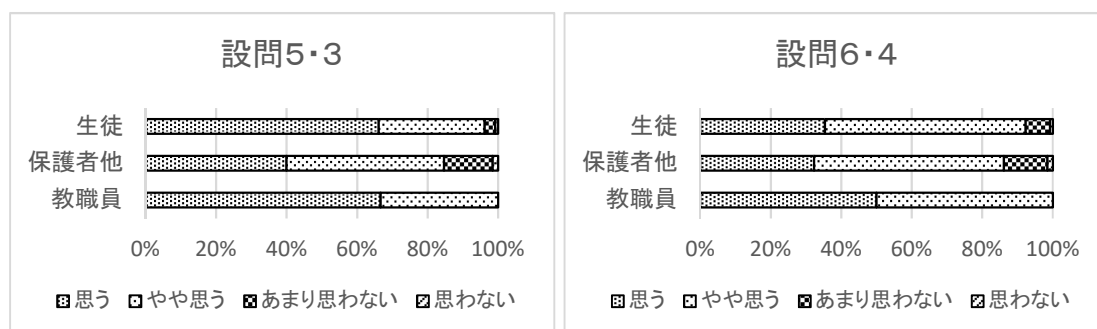
② 人権・同和教育、生徒指導について

設問5 学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問3 自分には、いじめや差別を許さない気持ちがある。（生徒）

設問6 学校は、「学校のきまり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童生徒の実態に応じた適切な指導を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問4 「学校の決まり」などを意識し、だれもがより良い学校生活が送れるよう心がけている。(生徒)



人権・同和教育や生徒指導に関する質問は、他の設問よりも肯定的回答が高く、昨年と同様の評価だった。

学校では、特別の教科道徳の時間をはじめ、生徒会の取組などを通して、いじめや差別のない人間関係作りに取り組んでいる。令和6年12月3日にご覧いただいた、人権学習参観日などの取組を通して、高い評価をいただくことができたと考える。しかし、「いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得るもの」であること、教職員の言動がいじめのきっかけや助長の原因となり得ることを十分認識しておく必要があると考える。

「生徒会申合せ事項」(いわゆる学校のきまりに相当するもの)については、毎年度、学級活動や生徒協議会、三者合同検討委員会を経る形で見直しを行っている。

今後も、生徒が主体的により良い人間関係作りに努め、学校生活の向上に取り組めるよう指導・支援を継続していきたい。

③ キャリア教育について

設問7 学校は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える生徒を育てている。(教職員、保護者、学校関係者)

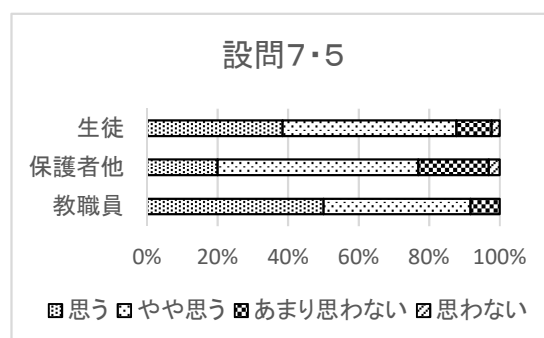
設問5 自分の進路や生き方について考えている。(生徒)

キャリア教育に関する質問では、生徒からの肯定的評価は90%近く、昨年より向上したものの、保護者の肯定的評価は80%を下回っている。

本校では、生徒が自分の進路や生き方について考える機会を多数設けている。例えば、毎週1時間ある道徳科の授業では、「他者とのかわりの中で自分らしく

生きていくにはどうすればいいか」を考えている。各教科においても、現代社会の課題等とどう向き合えばいいかを考える機会がいくつもある。

また、総合的な学習の時間では、SDGs学習(全校)、防災や環境保護学習・職業体験(1年)、職場体験学習・「働き方」「演劇の手法を用いた表現力育成」「物づくり」等に関する学習(2年)、福祉体験・パラスポーツ体験・進路情報の収集・自



己理解のための面接練習（3年）を行っている。

入学式や少年の日記念集会・記念行事、卒業式・卒業プロジェクトも、該当学年の生徒にとっては学校生活の節目を自分たちの成長につなげる重要な行事であり、キャリア教育の一環となっている。

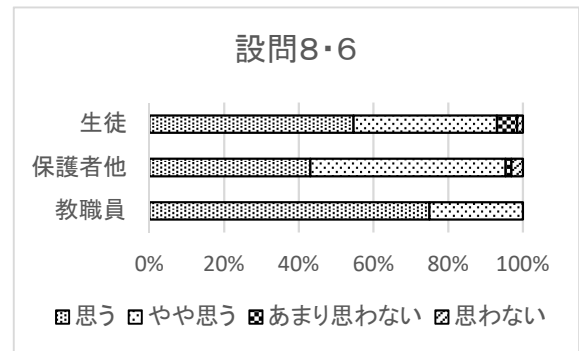
キャリア教育が、これら多様な活動を通して、自己の生き方について考えを深める学びとなるよう指導を工夫する必要がある。また、キャリアパスポート（小学校から高校まで使用する）に活動の記録を蓄積しており、それを有効活用して、キャリア意識を育てていくことも必要である。

④ 安全管理について

設問8 学校は、児童生徒に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境作りに努めている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問6 学校は、交通安全やけがの防止など、安全な環境づくりや指導を行っている。（生徒）

安全管理に関する質問は、昨年同様に高い肯定的評価が得られた。日常的に安全管理に努め、啓発活動を行ってきた成果であろうと思われる。今後は、自転車安全教室の定期的な実施など、地域から認められる安全意識の高揚を目指して、残っている不安を0に近づけたい。

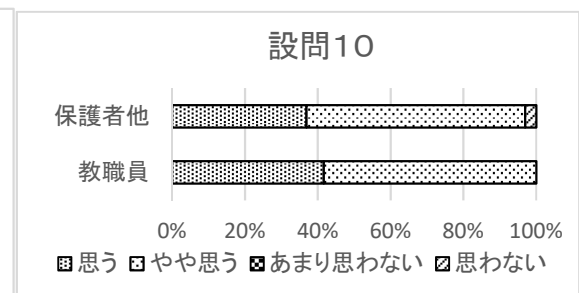
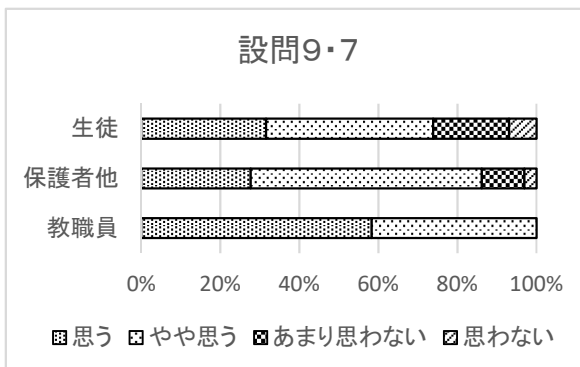


⑤ 保健管理について

設問9 学校は、家庭と連携して個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童生徒の健康保持・増進に努めている。（教職員、保護者、学校関係者）

設問7 健康的で規則正しい生活を送っている。（食事、睡眠、運動など）（生徒）

設問10 学校は、「換気の確保」や「手指衛生の指導」など、状況に応じた感染症対策を適切に行っている。（教職員、保護者、学校関係者）



保健管理に関する質問では、全体的に肯定的評価が多かった。また、生徒の設問7で、否定的評価が30%近く見られる点も、昨年と同じ結果であった。

規則正しい生活習慣の大切さなどについて、繰り返し指導を行っているが、評価につながっていないことを真摯に受け止め、保健委員の働き掛けや、「保健だより」などを活用した啓発活動など、着実に実行していきたい。また、食事や睡眠、ゲー

ムやスマートフォンの使用などについては家庭の協力が不可欠であるので、今後も適切な情報提供に努め、家庭との連携を図っていききたい。

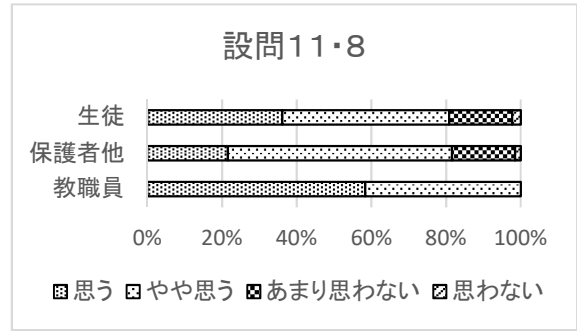
⑥ 特別支援教育について

設問 11 学校は、誰もが学びやすい学習環境を提供しているかという視点をもって取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問 8 学校は、一人一人の個性に応じた配慮や指導、アドバイスを行ってきている。(生徒)

特別支援教育に関する質問では、生徒の肯定的評価に向上が見られたものの、保護者の肯定的評価は昨年度と同様だった。

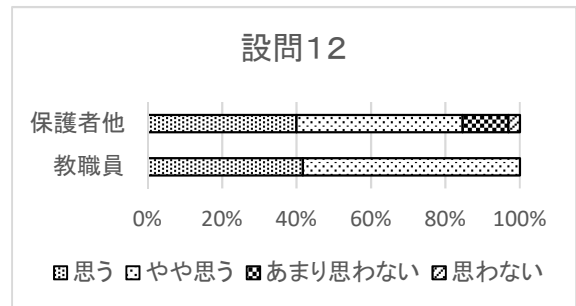
全ての生徒にとって学びやすい授業であるために、指示の伝え方や板書のしかたの工夫、生徒一人一人に応じた適切な課題の準備、共感的な人間関係作り、定期的な教育相談の実施などを今後も続けていきたい。



⑦ 組織運営について

設問 12 学校は、管理職や学年主任等を中心とした組織的な対応を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)

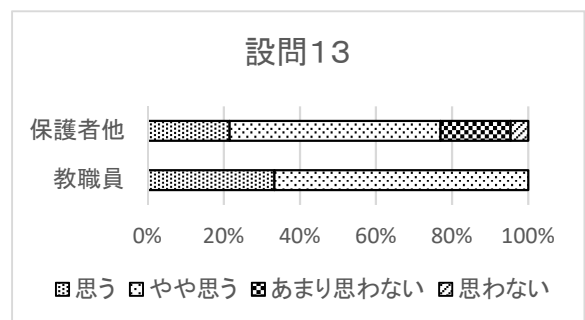
組織運営に関する質問は、肯定的評価が80%を超えたものの、若干の低下が見られた。また、教職員の強い肯定的評価が10%低下した。良好な組織で日々活動することが、学校・学年・学級の雰囲気づくりに重要である。今後も、安心感を感じることでできる組織であり続けるよう努力するとともに、生徒の変化に素早く気付き、教員が一枚岩でそれに対応できる組織づくりを進め、肯定的回答の向上を目指したい。



⑧ 研修について

設問 13 学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に努力や工夫をしている。(教職員、保護者、学校関係者)

研修に関する質問は、昨年よりも肯定的評価が若干低下したが、教職員の強い肯定は向上した。保護者からは『職員研修は保護者から見えないので評価アンケートで答えにくい』というコメントもあるので、授業や学校行事等の参観を通して、研修の成果を実感していただける



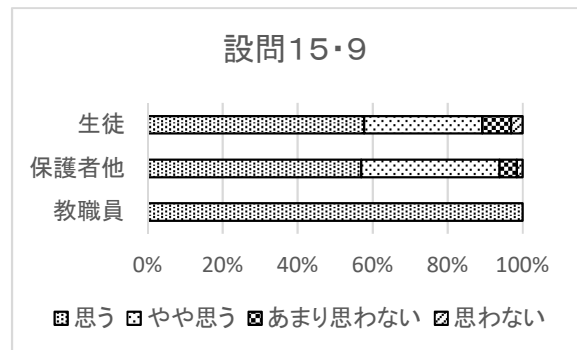
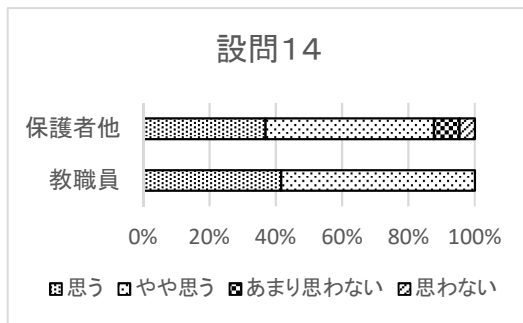
よう、今後も努めていきたい。

⑨ 保護者・地域との連携、情報提供について

設問14 学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。(教職員、保護者、学校関係者)

設問15 学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、積極的に情報を発信している。(教職員、保護者、学校関係者)

設問9 学校は、学年・学校だよりやホームページ等により、積極的に情報発信してくれている。(生徒)



保護者・地域との連携に関する質問と情報発信に関する質問では、昨年同様に高い肯定的評価を得ることができた。学校のホームページには、1日平均250件ほどのアクセスがあり、行事や学校だより、ホームページなどを通して学校の様子を知っていただくことができていると考える。

今後も多様な手段で積極的に情報発信し、より強い連携・協力のあり方を工夫していきたい。

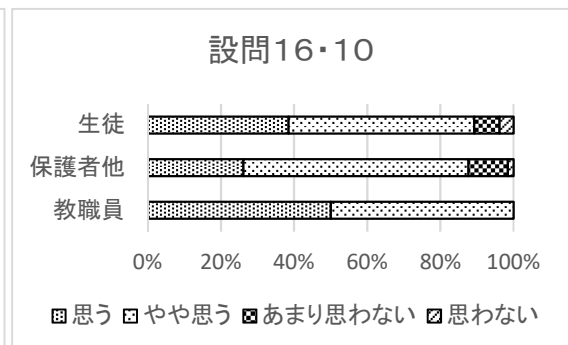
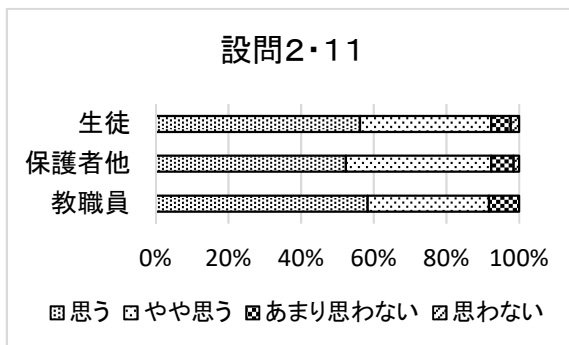
⑩ 教育環境の整備について

設問2 学校は、教科等の指導においてタブレット端末を活用するなど、効果的にICT機器を活用している。(教職員、保護者、学校関係者)

設問11 ほぼ毎日、授業でタブレット端末を使用している。(生徒)

設問16 学校は、言語活動の充実及び展掲示の工夫等の環境整備に努めている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問10 学校の学びの環境(展示物、掲示物の充実など)は整っている。(生徒)



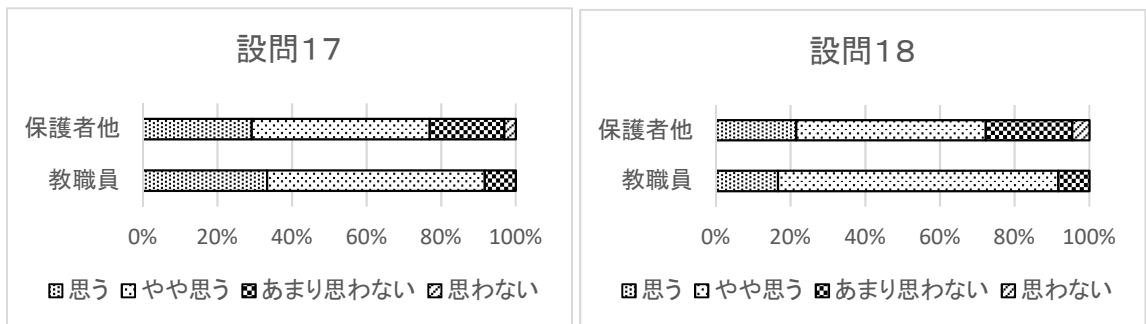
教育環境の整備に関する質問では、昨年同様に高い評価が得られた。ロイロノートの活用をはじめとして、本校のICT活用率は市内トップクラスであり、生徒用端末の活用が積極的に行われている。6年度は、EILS-PBT(手書きの解答の採点を

支援するシステム)を活用するモデル校として実践研究に取り組んだ。全国学力・学習状況調査や愛媛県学力診断調査でもC B T (コンピュータを使った調査)が取り入れられているなど、今後も全ての教科で積極的にI C Tの有効活用を進めていきたい。

① 幼保小中連携について

設問 17 学校は、小学校と連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。(教職員、保護者、学校関係者)

設問 18 学校は、教育の質の向上のために小学校と連携し、系統性を重視した学習指導を行っている。(教職員、保護者、学校関係者)



幼保小中連携に関する質問では、各設問ともに保護者の肯定的評価が昨年よりも若干低下した。

小中間では、生徒指導や交通安全、危険場所の情報、非常変災への対応、学校行事の実施時期等に関する情報交換などを日常的に行っている。また、学習指導に関しては、発達段階に応じた「家庭学習の手引き」を小中学校合同で作成して活用している。毎年度夏休み中には、小中全ての教員が参加して、小中合同研修会を開いている。今年度は、愛媛大学大学院から講師を招き、小中連携の在り方についての研修を行った。今後も、参観日等の相互参観など、授業改善につながる取組を促進したい。また、これらの取組について、ホームページや学校だよりを通して発信していくよう努めていきたい。体操服については、小中で、同一メーカー・同一商品を採用している。

3 おわりに

今年度も学校評価アンケートはオンライン実施し、保護者回答率は37%であった。今年度も個別懇談会などの機会でお答えをお願いしたが、思うほどの改善が見られなかった。他校の回答率も同様であるが、回答率の向上が大きな課題である。

処理の正確さや高い効率化のためにもC B Tが必要であるので、今後も皆様のご協力がいただけるよう取り組んでいきたい。

今回の学校評価アンケートから得られた結果を参考にしながら、保護者・地域・教職員がしっかりとチームを組み、「ふっと」笑顔のこぼれる「ほっと」な湯山中学校を、さらに「はーと」のあふれるあたたかな湯山中学校を実現させていくことで、教育目標「笑顔・夢・挑戦 諦めない生徒の育成」を目指していきたい。